

渡良瀬遊水地内の施設看板の更新

- トータルデザインを用いてウォッティングタワーの看板を更新しました。(R4.1末完成)
- 渡良瀬遊水地の成り立ちや治水・利水施設としての役割、ラムサール条約湿地登録後の取り組みなどについて紹介しています。



旧看板の状況 はがれや色あせがひどかった。



四方向に設置された看板

1

渡良瀬遊水地内の施設看板の更新

- トータルデザインを用いてコウノトリ観察小屋の前に看板を設置しました。(R4.2末完成)
- 渡良瀬遊水地の湿地保全・再生の取り組みやコウノトリについて紹介します。

渡良瀬遊水地での自然環境保全・再生の取組み

渡良瀬遊水地は茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県の4県の県境にまたがる面積33km²の国内最大の遊水地です。
絶滅危惧種を含む多くの動植物が確認されています。2012年には、水鳥等の生息地として
国際的に重要な湿地の基準に該当したとして「ラムサール条約湿地」に登録されました。

渡良瀬遊水地では、遊水地周辺の干草、草花を
回らせるなど、光環境化、外洋の防護等により
環境が改善された所を耕用し、多様な動植物の
生息地を作っています。耕作した耕地は、
学術研究や栽培実験に利用されていますが、
耕作せずそのままのまま放置していっています。

毎年春には、草花や植物の発芽の促進、病
害の除草を目的に1,500haの面積を焚き
耕した草をもぎ下す「ヨシ焼き」を実施して
います。また、この収穫によってナガサギが
飛来することによって耕作化を防ぎ、現在のよ
うな大きなヨシが維持されています。

園庭を介して耕作遊水地の豊かな自然環境を
守るために、地域の住民、各団体(・NPO等の
団体のもと)、沿岸活動やキラスの除草等の多
様な活動が実施されています。

コウノトリは野鳥類記念日に認定され、また、辛子を漢字「備蓄」として、
古くから多くの人々が祀られ続けてきました。日本では、生息環境の部
化等が深刻化し、1970年に国内の内河・海・コロドリに絶滅しましたが、その後、
海外からの幼鳥を受容し、具の巣をはじめとして全国で繁殖や保全、野
牛復育を実施したり取り組みが進められています。渡良瀬遊水地では、2014
年にコウノトリの繁殖が確認されました。2015年には、内河・内湖・内湖・内
湖等を対象として、周辺のコロドリを定着しました。2016年には、群衆に
おいて、定着したコロドリをオブザーブしています。河川流域内におけるヒナ
の誕生は渡良瀬遊水地が健全であることを示す指標となります。内食地で生態の頂点に
位置するコウノトリが生息するということは、渡良瀬遊水地は生き物がたく
さんいる自然豊かな場所であることを証明しています。

設置箇所

渡良瀬遊水地の概要等はQRコードから掲載されるサイトをご訪問下さい。
For more information on Watarase-ryusui, scan this QR code to access the website.

850m

850m

渡良瀬遊水地内の施設看板の更新

- トータルデザインを用いて自転車のスピード出しすぎの注意看板を更新しました。(R4.2末完成)
- 既存の看板よりも一回り大きくなり、ピクトグラムを用いているため、走行しながらもすぐに理解できるデザインになっています。



イメージ図